

イエス様がしてくださったように人を理解するとはどのようなことでしょうか。理解できず、それでも赦そうとする時、どれほどの我慢が必要でしょうか。その我慢はいつか爆発し、多くの恵みを消し去ってしまうことになるかもしれません。自らが持っている弱さを認めず、他者に同じ弱さを見た時に、自らと同じように他者も赦しがたい…だから、本来似ている、仲良くすべき間柄に仲違いは起こりやすいものです。

## ■ 1人の男の子の人生を変えた子犬の話

家に閉じこもりゲームに没頭している少年のもとに、母親が子犬を連れてきました。子犬には脚が1本ありません。少年はそのことを疎ましく思い、顔をしかめ、子犬を邪険に扱います。蹴られても睨まれても、健気に少年のもとに寄って来る子犬を次第に無視できなくなってきました。心を動かされた少年は立ち上がり、子犬と遊ぶために外へ出かけることにしました。立ち上がった少年は子犬と同じように片足がありませんでした。問題は同じだったのです。相手の問題が目につき、腹が立つ時、自分の中にある問題が似ていることがよくあります。自らの問題を理解し、受け止めた時、本当に理解しあうことができるものなのかもしれません。『こういうわけで、もしあなたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが神の右の座を占めておられます。あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。』(コロサイ 3:1-3)

問題に影響を受けて、同じようにしてしまう人もあれば、「そうはなりたくない」と決断して反対の行動をとる人もいます。現われは違っても、自分の中にある敵を、他者の中に見出して、相手を敵としてしまう。戦うべき敵は本当に相手だったのでしょうか。地域で同じ業を営む会社が2社ありました。双方が勝つためにいつも争っていました。一方があるプロジェクトを行っていると、後からできた会社も同じ取り組みをすると、「うちが先だ。」そんな心が生まれました。しかし、その時に神様は語ってくださいました。「同じ地域に住み、同じ問題の中を生きている。志を与えたのは誰なのか。」と。

## ■ ① 願いの動機

願いを持つに至った動機は何だったのでしょうか。願っていることは、神様が私に願っていることと同じでしょうか。願う時、心は何に向いているのでしょうか。人の評価でしょうか、富でしょうか。それらは地上のものではなく、天にあるものなのでしょうか。一時の時間、出来事に惑わされて決断してしまう時、神様の目から見て、それはどれだけ短い一瞬でしょうか。『人の心には多くの計画がある。しかし【主】のはかりごとだけが成る。』(箴言 19:21) 神様の計画は変わりません。神様が願っておられるのは用いようとした御心の姿に私が戻ること。そうすれば、『まことに、いのちの日の限り、いつくしみと恵みが私を追ってくるでしょう。』(詩篇 23:6) 地域で同業を営むライバル同士の2社。競い合う時、双方にとって敵は外にありました。敵が外にある時、内部の人が一体となることは簡単でした。しかし、そ

れは偽りの信頼でした。外との問題がなくなれば、内部に争いが起こるようになりました。これはどの組織であっても似ています。敵を見誤ってははいけません。愛すべき敵を憎むことで、一時、一致が得られるかもしれませんが。しかし、動機はどうでしょうか。動機が正しいければ、願った通りにならなくても、神様の栄光を知っている者は時を待つことができます。与えられた志を持って、願う時、神様が叫んでくれないわけがありません。待った時間が長く、犠牲にしたことが大きいほど恵みがあることを知っています。聖書に記されている歴史を見ると、望んで待ち望み、諦めなかった時に得られなかった人はありません。

## ■ ② 約束をはたす

『それゆえ、神に選ばれた者、きよい、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。』(コロサイ 3:12) 同情心とは共感や同調ではない、他者に対して、解決できる神様と同じ理解を持つこと。その理解を持てば、他者が失敗をする時、迷う時にも赦そうとする慈愛が起こります。自分もそうであったと同じ高さの下ることができる謙遜。だから柔和・寛容を保つことができます。『互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。』(コロサイ 3:13) 真の理解ができれば我慢は必要なく、赦すことができるはずです。『そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。』(3:14-15) これらの約束を果たさなければなりません。愛することも、これらの約束を守る姿もイエス様が示してくださいました。『キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわせ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌により、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。あなたがたのすることは、ことばによると行ないによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。』(コロサイ 3:16・17) 今年のテーマである『渾然一體』を成し遂げるための方法がここに記されています。

## ■ ③ 愛により一体に~完成する!!

天に帰ってからの時を思うと、地上の時は0.1%ほどかもしれません。この地上の時に、神の栄光を現す時として私達が用いられれば、生きている目的を知ることができます。奇跡をもたらす力は愛。天にあるものを願う正しい動機を持ち、神様の栄光を信じて、約束を果たし、完成のためにあきらめないこと。そうすれば時が来て、労苦が無駄でなかったことを知ることとなるでしょう。信じて種をまき続け、実りを待ちましよう。一体となり、成し遂げることができますように。